

用語解説

【総合的な学習の時間】

国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題、高齢化など子どもたちをとりまく環境の変化や、社会体験や自然体験の減少などの状況を考慮し、人間としての調和のとれた育成を一層重視する必要があることから、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむために、各学校が創意工夫を生かして、教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習を実施できるよう、小中高等学校の教育課程に新たに創設された。

ねらいとして、(1) よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、(2) 学び方やものの考え方を身につけ自己の生き方を考えることが出来るようにすること (3) 教科等で身につけた知識や技能等を学習や生活において生かすことが出来るようにすることと示されている。

具体的な取組みとしては、学校や地域、児童・生徒の実態に応じて創意・工夫を生かした活動をする事としているが、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの課題や、興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などが示されており、伯太高校では「GS (グローバル・スタディーズ)」と呼び実践している。

【職業体験学習】

職業や仕事の世界についての具体的・現実的理解の促進、勤労観、職業観の形成、自己の可能性や適正の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等を目的に中学校を中心に実施されており、豊中市では「豊中市チャレンジプランCUL (カル)」と呼び実践している。

職場体験学習の意義 (文部省進路指導資料より)

- 職業や自己の適性について、現実的、具体的な知識・理解を得、主体的な進路選択能力を高めることが出来る。
- 働くことの喜び、社会的な意義や役割などについて知ること、望ましい職業観の形成につながる。
- 職業上のスキルの初歩を体得でき、職業生活を営む上でのマナーやルールを知ることが出来る。
- 地域社会の活性化が言われる中で、地域の企業や職業についての理解を高め、進路の選択肢を拡大することができる。